戦いに敗けても挫けず
何度も果敢に挑戦し続けるときも、
熱く、まばゆく燃え続ける。
熾烈な戦いのなかで、
すべての敵を焼き尽くしてしまうまで。

■ 日本リーグ唯一の公式試合球
■ 全日本実業団連盟主催大会唯一の公式試合球

32H312Y ヌエバ ¥6,825(本体価格¥6,500)
国際公認球・検定球・縫い・人工皮革・3号球
カラー（黄×黒）

32H212Y ヌエバ ¥6,615(本体価格¥6,300)
国際公認球・検定球・縫い・人工皮革・2号球
カラー（黄×黒）
(標記の価格はメーカー希望小売価格)

株式会社 モルテン 東京本社 〒130-0003 東京都墨田区横川五丁目5-7 大阪・名古屋・福岡・広島四国・仙台・札幌・モルテンUSA・モルテンヨーロッパ・モルテンタイランド・モルテンメキシコ www.molten.co.jp

氷見市から全国への発信

―「春の全国中学生ハンドボール選手権大会」の開催に向けて―

春の全国中学生ハンドボール選手権大会氷見市実行委員会 副会長・実施本部長　金原　至

新年明けましておめでとうございます。今年もハンドボール関係者にとって、飛躍の年になることを祈念しています。

さて、私はハンドボールの魅力は、走・跳・投の基礎能力は勿論、身体接触に対応できるボディーコントロール能力と相手への配慮、そして集団の特性と個の独自性が綾なす関係が要求されるスポーツだと考えています。それは、まさに我々が人生を送るに求められる諸条件を包括しているのです。

特に、中学時代は人間の生涯の土台作りに該当する世代です。ハンドボールは人としての智・情・体・技等、全ての要因に関して将来への可能性を育む鍵を握っていると考えています。この視点に立ってみると、「春の全国中学生ハンドボール選手権大会」の新規事業は、私達関係者にとって大変意義があり、魅力的です。しかも、「十年連続開催」という過去に例のない企画です。このことは、ハンドボール関係者のイベントといった過去のイメージから脱却し、行政、経済界、教育界等、あらゆる部署が地域総ぐるみで取り組むことにより、地域の現活力、未来活力の進展の一翼を担うものでありたいと自負しています。年を重ねることにより、十年後には次のような目標が達成されていることを期待しています。

（1）ハンドボール競技レベルの向上

中学生強化の成果は、中学世代だけにとどまらず、次代の高校、大学、実業団と将来の競技力向上が期待できます。大会時に交流試合や各種の研修会を開催することで、ハンドボール競技の魅力と理解を更に深めてもらいたいと思います。

（2）アグレッシブな小学生の育成

ハンドボール一種目の強化という観点に立たないで、能動的、活動的、知的で感性豊かな人間形成に役立てばと考えています。共に生きる喜びを知る情緒溢れる子どもの成長への一貫した取り組みを目指し、小学生の基礎力を開拓していきたいと思います。

（3）地域の活性化

行政・経済界の指導・協力の下に、ハンドボール関係者・中学関係者に限らず、地域住民の連携と支援活動により、市民参加のイベントとして育てていきたいと思います。

（4）氷見市を全国に発信

氷見市の魅力を、競技関係者、大会参加者、サポーターに理解してもらう。このことにより、「またこられ氷見」、「ハンドボールの聖地（メッカ）氷見」の名を全国に発信する。

このような課題を、世代を越え、しかもハンドボール関係者のイベントから飛び出し、地域に立脚した企画と位置づけ、一年一年目標を充実させ、意義あるイベントに育てていきたいと思います。

全国の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

※「またこられ」とは氷見地方の方言で「またいらっしゃい」の意味（機関誌編集委員会）

平成17年度第57回全日本総合ハンドボール選手権大会

古豪復活！嬉しい優勝　男子：大崎電気（16年ぶり9度目の優勝）　女子：オムロン（7年ぶり9度目の優勝）

写真提供：スポーツイベント社

平成17年12月21日（水）～25日（日）まで福井県営体育館、北陸電力福井体育館フレアを会場に標記大会が開催された。平成17年に活躍した男子16チーム、女子12チームが大雪の年末、福井県を会場に連日熱戦を繰り広げた。男子は優勝：大崎電気、準優勝：大同特殊鋼、第3位：トヨタ車体、湧永製薬、女子は優勝：オムロン、準優勝：広島メイプルレッズ、第3位：北國銀行、ソニーセミコンダクタ九州であった。最優秀選手賞は男子：宮﨑大輔（大崎電気）、女子：佐久川ひとみ（オムロン）両選手が受賞した。

今大会の目玉の一つであった高校三冠を達成した興南高校（沖縄県）は初戦で大学チャンピォンの筑波大学に対し前半リード、後半力及ばず1点差で破れはしたが互角に競り合い、その力が本物であることを証明した。また、出場した大学4チーム中3チームが2回戦に駒を進めたが、4強は全て日本リーグ勢が占めて、実業団チームの強さが目立った大会となった。

女子では広島メイプルレッズにオムロンが35-23の大差で勝ち、久々の全日本タイトル獲得で広島メイプルレッズの8連覇を阻止した。大学勢では筑波大学が、来シーズンから日本リーグに参戦するMIE. Violet'IRISを第二延長の末に破り、大学チャンピョンの武庫川女子大学も2回戦国体優勝のソニーセミコンダクタ九州に対し後半はリードする善戦をした。また、地元国体の総合優勝、皇后杯獲得に貢献したＨＣ岡山も準々決勝で女王広島メイプルレッズに対し5点差追いつめる力を見せた。

※大会の詳しい結果、戦評、チーム喜びの声につきましては次号に掲載いたします。

第14回ＪＯＣジュニアオリンピックカップ2005ハンドボール大会

男子：茨城県（選抜）4年ぶり3回目の優勝　女子：沖縄県（選抜）5年ぶり2回目の優勝

写真提供：スポーツイベント社

将来、オリンピック・世界選手権大会等において、日本代表選手として活躍する将来性のあるジュニア選手の発掘と育成を目標に開催された標記大会も14回目を迎えた。大会は25日（日）、26日（月）：予選リーグ、27日（火）：決勝トーナメント、会場は堺市家原大池体育館、堺市金岡公園体育館で開催された。男子は茨城県選抜、女子は沖縄県選抜が優勝した。

大会には各ブロック予選を勝ち上がった男女各15チーム、開催地1チームの計32チームにより行われた。最終順位は男子、優勝：茨城県選抜、準優勝：愛知県選抜、3位：山口県選抜、兵庫県選抜、女子は優勝：沖縄県選抜、準優勝：奈良県選抜、3位：福井県選抜、大分県選抜。オリンピック有望選手には男子は糟谷周穂（兵庫県選抜、浜の宮中）、宮本克哉（兵庫県選抜、高砂中）、木村昌丈（茨城県選抜、鬼怒中）が選ばれ、女子の該当者はなかった。※大会の詳しい結果、戦評、チーム喜びの声につきましては次号に掲載いたします。

平成の世に、犯罪・結露・熱伝導から、
お客様を助けるために立ち上がった会社があった！

スペーシア　ペアマルチ　セキュオ

がんばるサンクス
http://www.thanxs.com
株式会社 サンクスコーポレーション 建築硝子部
〒157-0061 東京都世田谷区北烏山8－1－5
TEL(03)5313－6714　FAX(03)5384－0220

第17回世界女子ハンドボール選手権大会（2005：ロシア）

日本 目標の本戦ラウンド進出成らず：18位に終わる

標記大会は2005年12月5日（月）～12月18日（日）、ロシアにおいて開催された。北京オリンピックを目指しバウワー監督を招聘した日本ナショナルチームの本格的世界大会となった。

大会は4組の予選ラウンド（6チーム1回戦総当たり）→2組の本戦ラウンド（各組上位3ヶ国）→決勝トーナメント（各組上位2チーム）でおこなわれ、日本はロシア、オランダ、中国、クロアチア、ウルグアイと共に予選Aグループとなった。予選リーグ、日本は1勝4敗で予選リーグを突破することができなかった。日本チームの予選リーグの成績、大会最終順位は以下の通りである。

写真提供：スポーツイベント社

■日本チームの成績

第1日（12月5日（月））　●日本 27 － 33 中国
第2日（12月6日（火））　●日本 30 － 31 クロアチア
第3日（12月7日（水））　○日本 44 － 22 ウルグアイ
第4日（12月9日（金））　●日本 27 － 35 オランダ
第5日（12月10日（土））　●日本 24 － 34 ロシア

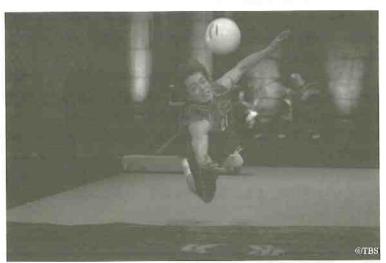
※大会の詳しい結果、選手団名簿、戦評、チームの声につきましては次号に掲載いたします。

■最終順位

順位	国名	組
優勝	ロシア	（Ⅰ組1位）
準優勝	ルーマニア	（Ⅱ組1位）
3位	ハンガリー	（Ⅰ組2位）
4位	デンマーク	（Ⅱ組2位）
5位	オランダ	（Ⅰ組3位）
6位	ドイツ	（Ⅱ組3位）
7位	ブラジル	（Ⅱ組4位）
8位	韓　国	（Ⅰ組4位）
9位	ノルウェー	（Ⅰ組5位）
10位	ウクライナ	（Ⅱ組5位）
11位	クロアチア	（Ⅰ組6位）
12位	フランス	（Ⅱ組6位）
13位	オーストリア	（C組4位）
14位	スロベニア	（B組4位）
15位	マケドニア	（D組4位）
16位	アンゴラ	（B組5位）
17位	中　国	（A組4位）
18位	**日　本**	（A組5位）
19位	ポーランド	（C組5位）
20位	アルゼンチン	（D組5位）
21位	コートジボアール	（C組6位）
22位	カメルーン	（D組6位）
23位	ウルグアイ	（A組6位）
24位	オーストラリア	（B組6位）

正月に飛び込んできた驚きの朗報

宮﨑大輔選手（大崎電気）

TBSテレビ スポーツマンNo.1決定戦 大逆転の末“総合No.1”に!!

宮﨑選手の奮闘シーン（写真提供 TBS）

日本ハンドボールリーグ男子1部の「大崎電気」で活躍する宮﨑大輔選手は、11月13日TBS放映の”日本にはまだまだ凄い男がいる”「BODY」の中で自ら予告したとおり、正月恒例の“最強の男は誰だ！筋肉バトル!! スポーツマンNo.1決定戦XXXI”に出場。そしてドラマが！　最終種目shot-gun-touchで大逆転、“総合No.1”の栄誉に輝きました。

宮﨑選手に対しましては心から最大の賛辞を送ると共に、ハンドボール関係者と共に喜びを分かち合いたいと思います。

日頃からハンドボール選手は身体能力が高いと各方面から言われていました。また、その能力は走・投・跳ばかりでなく瞬発力、持久力など全ての面に渡るとも言われ続けてきました。今回の宮﨑選手の活躍はそれを証明するものとなりました。

機関誌では、次号において宮﨑選手の喜びの声をお伝えする予定です。併せて、「宮﨑大輔物語（仮題）」と短期集中連載していきます。ご期待下さい。

第60回国民体育大会
『晴れの国おかやま国体』 詳報

前号既報の通り、標記大会は地元岡山県の天皇杯、皇后杯受賞と各開催地における大きな盛り上がりのうちに閉幕いたしました。大会は岡山県北部の真庭市、津山市、鏡野町の三会場で行われ、民泊となった家庭を含む多くの声援で試合は盛り上がりました。今号では地元協会、地元自治体の声をお伝えいたします。併せて、23年ぶりにブロック予選を勝ち上がり、24年ぶり本大会勝利を挙げた高知県成年男子についての高知県協会便りを掲載いたします。

種目別天皇杯・皇后杯の「重み」

岡山県ハンドボール協会理事長　**森安 昭雄**（岡山県立総社高等学校）

「ずっしり重い――」。出場選手全員の、そして県下ハンドボール関係者の熱い気持ちのこもっている種目別天皇杯・皇后杯を受け取った時の「重み」は、きっと末永く、県ハンドボール界の歴史に刻み込まれることと確信した。

思えば、県協会として国体を一過性のものとはせず、国体開催を契機に何か多くの財産を残すべく考えた。組織を残すか、人を残すか、物を残すか、金を残すかと将来展望見越してスタートをした。また、強化、特に選手育成を通じて県民の多くの方々にハンドボールを知ってもらう絶好の機会でもあった。結果を残すことで注目をさらに集められる絶好の機会とも考えた。

開催地決定後にすぐ取り組んだことは、津山市、落合町地区に地域に根ざしたジュニア層育成のためのクラブ発足であった。両地区ともハンドボール界の諸先輩の熱意によって産声を上げ、依頼地道な活動が岡山国体成功の源であった。ただ、鏡野町はハンドボールとは無縁の土地柄であったため、広報誌、民泊協力会等を通じての町を挙げての「競技への理解」協力には感謝の気持ちで一杯でした。

総務・競技・審判・強化と各立場ごとに責任体制を取らせ、地元津山市協会、落合協会をベースに中・高・高専と連携を取りながら、月に１～２度の県協会常任理事会を開催し、情報交換の場を設定して国体は全員で行うものであることにも主眼をおいた。

結果を残すことにおいては、岡山県協会の96年の「競技力向上10ヶ年計画」を他の競技団体よりも、一歩も二歩も先んじて上手に活用させていただいた。有望選手の発掘や育成、指導者の資質向上、ジュニア育成等である。さらに、国内留学派遣制度、日本代表コーチ等を招くアドバイザーコーチ制度の導入も行った。そして、スポーツ医科学の視点からの選手サポートを行うトレーナー制度も大いに活用した。人材も県内外を問わずに、人を残すことにも奔走した。審判Ａ・Ｂ級を多くの者に取得させ、競技部も確立させ、マッチバイザーも養成した。その結果、成年男子５位、成年女子３位、少年男子４位、少年女子５位という四種別全てが入賞し、天皇杯（男女総合）、皇后杯（女子総合優勝）という形で終了した。

しかし、この結果は我々競技団体だけで成し遂げられたのではないことは当然である。三市町の絶大なる支援、民泊協会をはじめ、地域のお子さんから年配の方までの応援の盛り上がり、県内各地域からのハンドボール隠れファンの方々、学校あげての応援等多くの方々の応援パワーが有ればこそであった。

私達岡山県ハンドボール協会は、この盛り上がりを今後どの様に生かすかという課題を頂いたと思う。この活動を通して得た教訓をもとに、岡山県ハンドボール界を一層飛躍させていきたいと考えております。

最後になりましたが、紙面をお借りしまして日本協会を始め、各関係者に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

競う人、応援する人、そして支える人が「キラリ☆」と輝く

真庭市落合実行委員会事務局　松尾 憲和

「あなたがキラリ☆」のスローガンの下行われた、晴れの国おかやま国体秋季大会ハンドボール競技は、大過なく幕を閉じる事が出来ました。これは、一重に競技を滞りなく進めて頂いた、ハンドボール協会の皆様方、ボランティアとして参画頂いた沢山の皆さん、そして、何と言っても選手団の受入と応援で、この大会を大いに盛り上げて頂いた、旧落合町内27民泊協力会の方々のお陰だと担当者一同感謝しています。

振り返ってみると、平成12年4月国体担当係から始まり、国体推進事務局の体制で国体本番を迎えるまで通算4年6ヵ月、その大半を民泊受入のお願いと、その体制作りに費やしてきました。

国体開催と民泊実施の必要性についてなかなかご理解を頂く事が出来ず、お願いする立場の者からすると本当に大変な思いもしましたが、3年以上も先の事をお願いしてきたのですから、無理からぬ事でもありました。

それでも、連日に及ぶ旧町内各地区へ赴いての説明と平成16年6月におこなった広島県安芸高田市（旧甲田町）への民泊視察が功を奏したのか、平成17年の3月までには、来県する全40チームを27の地区で受入れる事をそれぞれ決定して頂きました。その上、民泊協力会連絡協議会までも立ち上げる事ができ、先催県の事例に比べても遜色のない、いやむしろ自慢出来る状況となりました。

そして、いよいよ本番の平成17年10月23日。

会場では事務局が用意した観客席が埋め尽くされ、その周りを幾重にも囲む立ち見の人達。試合開始と同時に、地鳴りがする様な民泊協力会の応援、その応援に答えるべく更なる闘志を奮い立たせ、国体本番と言う檜舞台で素晴らしいプレーを見せる選手達。それは、見ている誰もが鳥肌が立つような光景でした。

改めて、この国体の主役は白熱した試合を繰り広げた選手達であり、その選手達を我が子のように支えた民泊協力会の皆さんだという事が判った瞬間でした。そして、その事が晴れの国おかやま国体のスローガン通りに競う人、応援する人、そして支える人が「キラリ☆」と輝いたと思います。

輝く沢山の笑顔と感涙を見せて頂き、そして私たち担当者へ感謝の言葉まで頂くことで、長い間裏方として携わってきた者の目から見ても、この国体は大成功だったと確信する事が出来ました。

今まで、「民泊が成功すれば、国体は成功する。」と耳にたこができる程、聞かされてきました。国体が終わるまで半信半疑だったこの言葉を、後催県の担当者に自信を持って贈ることにしたいと思います。

↓勝山応援風景

白梅応援風景→

掲載写真2枚は真庭落合実行委員会提供

大会の成功と今後のハンドボール競技の発展

津山市総務部国体推進室主任　寺坂 真一

第60回国民体育大会・晴れの国おかやま国体が岡山県北の地を会場として開催され、成功裏のうちに終了したことは、協会関係者はもとより我々事務局員にとってもたいへんな喜びです。

津山会場は、成年男子24チームが参加、覇を競いましたが、地元岡山の躍進もあって非常に盛り上がったものとなり、観客も国内トップレベルのプレーを十分堪能することができました。

大会の開催準備については、津山市が今大会では4競技（柔道・剣道・ハンドボール・軟式野球）を担当していたこともあって思うように進みませんでした。結局、会場準備等で何とか開催できる形になったのは10月に入ってからという、「今だから話せる」ような状態でした。

準備ということをもっと広範囲に捉えれば、国体開催に向けて5年前から津山ハンドボール教室を立ち上げるなどして、競技人口の拡大と開催に向けての盛り上げを図ってきていました。今回の大会では、式典の補助員として、開始式・表彰式でのプラカード保持と『若い力』の合唱、「ももっち体操」（集団演技）などを行ってもらいました。プラカ

成年男子（写真上）、少年男子（写真下）
写真提供・スポーツイベント社

ードの保持については、練習も比較的スムーズに行えましたが、合唱についてはなかなか時間がとれず、週１回のハンドボール教室の練習日にBGM曲を流すことでリズムを覚えてもらうなど、刷り込み的な手法で対応しました。また、「ももっち体操」については、低学年（小学校３年生以下）の教室生に取り組んでもらいましたが、“ハンドボール教室の普段の練習より厳しい”といわれた踊りの練習を８月以降10数回積み重ね、可愛らしい踊り（体操）を晴れの舞台で見事に披露してくれました。

市内各校の高校生にも、たくさんボランティアとして協力をしてもらいました。各校のハンドボール部員のほとんどは競技補助員として各会場に、高校生ボランティアグループ（アクショングループ）は観客の整理や、選手へのドリンク提供などで活躍してくれました。選手との交流という点では、ボランティア以外の市民の方にはあまり機会がありませんでしたが、試合場玄関付近でのサイン攻め、写真攻めといったところで多少は交流が図れたと思います。くだんの教室生達もＴシャツにサインをもらって、たいへん喜んでおりました。こういった交流を通じて、ハンドボールを今後も続けていってもらう原動力となれば、国体のこの上ない財産になると思います。

観客では、延べ800名の市内小中学生がハンドボールのスピードやテクニックを目の当たりにし、その迫力に圧倒されていました。初めて試合を観戦する生徒・児童も多く、競技への理解も深まったものと思います。来年度のハンドボール教室生の募集時期に、応募がどっと増えることを楽しみにしております。

今後は、この国体開催の効果を最大限に活かして、競技人口の増加と津山地域における競技力の向上を目指して、協会及び教室の活動を支援してきたいと思います。

最後になりましたが、競技会の運営にあたり、多大なるご指導、ご支援をいただきましたハンドボール協会関係者の皆様、諸々ご教示いただきました先催県の皆様に衷心よりお礼申し上げます。

非常に大きな感銘を与えてくれた、『鏡野町での国体』

苫田郡鏡野町国体推進室 室長補佐　小鴨 建夫

第60回国民体育大会『晴れの国おかやま国体』のハンドボール競技会を無事終えることができ、まずは「ほっと一安心」というのが正直なところです。

民泊による宿泊体制の整備、大幅な仮設による競技会場づくりなど、大会開幕直前の時期には一抹の不安を抱えておりましたが、結果として大成功のうちに競技会を終えることができ、ひとえに各民泊協力会の皆様と県協会を中心とする競技団体役員の皆様のご尽力のおかげと感謝しております。

私どもに非常に大きな感銘を与えてくれた、『鏡野町での国体』を少し振り返ってみたいと思います。

大会の準備と運営

平成13年の宮城国体視察が実質的な大会準備のスタートであり、その年末に準備委員会を設立し、翌平成14年度に準備委員会から実行委員会へ移行、平成15年度には民泊地区の決定を行うとともに、静岡国体へ地元関係者を中心に75人の視察団を送り、民泊推進機運の高揚を感じることができました。

平成16年６月に町職員を中心とする実施本部の立ち上げ、８月にはリハーサル大会開催、さらには埼玉国体視察と本大会に向けての諸準備に奔走する日々でありましたが、最大の課題である民泊体制整備に確かな手応えを感じることができ、大きな励みになりました。

ボランティアの活動

町民ボランティアについては、リハーサル大会時に多数の参加をいただき、大変にお世話になりました。

本大会では、このときの皆さんに意向確認を行う形で必要な人数の確保ができ、実施本部の様々な業務の補助に力を発揮いただきました。

民泊と会場整備について

準備の項目でも触れましたが、当初から鏡野町での国体成功の鍵はひとえに民泊の成功にあるとの認識でありました。言い換えますと常に最大の課題であり続けたわけですが、平成15年６月を皮切りに延べ100回を超える様々な説明会の中で、そして、選手たちがやって来てからの各民泊協力会の熱意溢れる取り組みを目の当たりにして、改めてわが町の住民の力を認識させていただきました。

端的には競技開始からの会場の様子が全てを物語っており、会場は連日満員のうえ立ち見の人々で溢れ、試合の結果を問わず『わがチーム』への熱心な応援と、それに応える各

チームの素晴しい試合ぶりがありました。

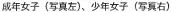
各協力会での町民と選手たちの温かい交流があればこその試合会場の雰囲気であったと思います。

会場作りについても、当初は競技床面をはじめ、ほぼ全て仮設対応を迫られる条件を非常に不利に感じておりましたが、国体選手たちのプレーを間近に見られる（間近に見ざるを得ない？）ことのメリットは非常に大きなものがありました。

多くの町民の皆様にハンドボールの面白さを肌で感じていただけたと思います。

成年女子（写真左）、少年女子（写真右）　写真提供・スポーツイベント社

まとめ

当初は全くの手探りと資料集めから始まった『鏡野町の国体』ですが、時間の経過とともに、徐々に民泊を中心とする具体的な全体像を描くことができるようになり、私たちが思い描いた『鏡野町の国体』の一端は実現できたのではないかと思います。また、十分ではない会場設備の中で、連日大会運営に当たられた競技団体役員の皆様にも厚くお礼申し上げます。本当にお疲れ様でした。

最後となりましたが、日本ハンドボール協会とハンドボール競技のますますのご発展を祈念いたしております。

国体トピックス：高知県協会便り

高知県成年男子23年ぶりに四国大会突破、24年ぶりの国体白星

高知県成年男子（選抜）は23年ぶりに四国ブロック大会を2勝1敗の成績で突破し本大会に駒を進めた（全県1チーム参加時は除く）。本大会では1回戦兵庫県（スワロークラブ）と前半11－11、後半も最後までもつれて、22－21で24年ぶりに白星を挙げた。高知新聞では、その日バスケットボールの少年男子が強豪秋田を破っての8強進出を決めたにもかかわらずハンドボールがスポーツ面に写真入りで大きく報じられた（写真右下）。

本大会に参加した高知県成年男子チーム

高知県ハンドボール協会の武田末男理事長は国体のハンドボール競技と大変大きな関わりを持つという。武田氏は選手として11回、監督として6回の国体に出場している。そして、夫人とは選手として参加した鹿児島国体（第27回、昭和47年）の宿泊先で知り合ったのが縁で結ばれた。また、今回の成年男子チームに参加している三男泉氏は滋賀国体（第36回、昭和56年）の年に生まれたため、琵琶湖にちなみ命名された。ちなみに、高知県成年男子が最後に勝ち星を挙げたのはこの滋賀国体であり、武田理事長は選手として出場していた。今回泉氏の参加するチームが24年ぶりの白星を挙げたことに武田家としても喜びひとしおであった。

武田高知県協会理事長

ハンドボール　成年男子24年ぶり白星

兵庫との大接戦制す

つかんだ1勝と自信

高知新聞（2005年10月24日）

男子
筑波大学 2年連続優勝
女子
武庫川女子大学 初優勝

前号既報の通り、標記大会は昨年11月5日～9日まで、川崎市とどろきアリーナ、法政大学第二高校を会場に開催された。男子は筑波大学が決勝戦で日本体育大学を破り初の２年連続の優勝、女子は武庫川女子大学が関東学生連盟所属以外として初の優勝を飾った。今号では主催者、男女各優勝チームのコメントを掲載します。併せて今大会の開催に中心的な役割を果たした関東学生ハンドボール連盟運営委員を紹介いたします。
大会結果はスコアールーム（p. 22）に掲載いたします。

多くの人達の力で成功させた大会
―大きな大会の運営を経験して―

関東学生ハンドボール連盟総合委員長・大会運営委員長　小島 康次

関東学連総合委員長を務める私は、リーグ運営は経験していますが、インカレという大きな大会の運営委員長は初めての事であり、どの様に運営していけばと不安でした。しかし、福地理事長他役員の方々のバックアップもあり、他の運営委員と共に協力し、何とか大会を終わらせる事ができ、正直、ホッとしています。

大会の運営レイアウトは、数次の役員会、インカレ準備委員会にて検討され、そのレイアウトに基づき運営に入りました。後援・協賛・広告協力依頼等で、役員の方々が苦労されている姿を見ていますと、今の経済状況の影響で資金手当の厳しさも実感させられ、この点でも良い経験をしました。

空席でありました全日本学連及び関東学連会長が９月と10月に決まり、両会長が開会式にご来場下さり、挨拶を戴いて、開会式が終わった時には、無事開幕出来て一安心しました。

運営面で苦労というか戸惑いがあったのは、使用会場の厳しい使用規定で、参加大学の皆さんもビックリされたと思います。しかし、言われていることは、当然守らなければならないことであり、ごく一部の心ない選手の行為が、インカレ参加選手全体のマナーと評されるのは、同じ学生として残念でありました。

今回は会場確保の関係で土曜日からの競技開始となりました。準備関係の役員他補助委員、審判員、マッチバイザー、その他の人的な面で動員が多く出来ました事、地方在住家族の方から勤務先を休まず応援に行けるので、土曜・日曜の１～２回戦は有り難いとの言葉も掛けて戴きました。

今大会の準備、運営に携わり、全国規模の大会を開催するには、最低１年半か２年前からの周到な準備の必要性、その他、紙面の関係にて全部は書くことが出来ませんが、色々な事を経験させて貰いました。全国規模の大会を開催・運営する大変さも実感致しました。この経験は、今後、困難にぶつかった際に必ず生かせるものと思います。

男子は筑波大学が岩永、海道を中心に全員ハンドで２年連続３回目、女子は武庫川女子大学がパワーとスピードで決勝戦を延長で制し、初優勝を飾り、第１回から40回まで関東学連所属大学が独占してきた優勝旗を関西に持ち帰りました。女子の部で、ユニフォームの規定違反にて競技不成立となり、優勝候補が消えるという事態もありましたが、男女共に、準々決勝戦からはどの試合も１点を争う好試合が展開され、大会を大いに盛り上げてくれました。

大会開催に際しましては、多くの皆様の御尽力で無事終了致す事が出来ました事、運営委員長として心からお礼申し上げます。

男子優勝チームの声

インカレを最高の形で終えて…

筑波大学男子ハンドボール部主将　船木 浩斗

優勝が決まった瞬間に、試合に出ていた選手もそれ以外の選手も、皆コートに集まってきて、学生ハンドボーラーにとっての最高の喜びを感じることができました。筑波大学男子ハンドボール部史上初の、インカレ２連覇をかけた大会だったので、目には見えない様々なプレッシャーが選手１人１人にあったと思います。しかし、それをはねのけ２年連続

の優勝を勝ち取ることができたことで、27人の部員それぞれ大きく成長できたと思います。

4位という結果に終わった春リーグは、チームにまとまりがなく、個人で戦っている感じがありました。夏の練習で2年生の山城や1年生の田中など、チームに活気を与えてくれる選手が出てきたことで徐々にチームの中に一体感が生まれ、その流れに上手く乗り、秋リーグは負けなしで優勝することができたのではないでしょうか。また、秋リーグで、全10チーム中最小平均失点という結果が出たことで、インカレへの自信が更に高まりました。

胴上げされる大西監督

準決勝の日本大学戦、決勝の日本体育大学戦のどちらも劣勢で試合が進んでしまったのですが、「ディフェンスで粘り、ミスの少ないセットオフェンスで点数を積み重ねる」という、本来の筑波大学のハンドボールを2試合とも展開できたので勝利につなげることができたと思います。

男子優勝　筑波大学

最高の形でインカレを終えることができ、OB会や父母の皆様をはじめ、大会期間中筑波大学ハンドボール部を応援してくださった皆様に、御礼を申し上げます。

女子優勝チームの声

武庫川女子大学の軌跡と喜び

武庫川女子大学ハンドボール部監督　樫塚　正一

◆優勝の喜び

これまでのチームは、経験の無さとか勝負弱さなどを指摘されてきましたが、負けても負けてもその位置にとどまり、何かを工夫することで壁を破るチャンスを探り出すことが課題でした。そのような考えが関東チームに対する挑戦や宿命であり、今大会までの道のりは長い長い歴史といえます。歴史に新しい風を吹き込むことができたことは何物にも代え難い経験と誇りを得たように思います。傷だらけの選手に対して感動のあまり、ねぎらいの言葉を十分にかけてやれなかったことを悔やんでいます。

◆勝　因

学生の部活動は限られた数年間に総てを懸けるものです。この環境の中でチームとして力を発揮させるコーチングを求められましたが、チーム作りの前途は多難でした。個で勝てない為に全体で勝つための工夫を考えざるを得ませんでした。その全体で戦えたことが勝因と思っています。ポジションにこだわらず出場時間もキャリアにこだわらず、チーム全体としてやらなければならないことを出来る者が役割として果すことができました。全体として果す役割も個として果す役割もよく理解できていたと思います。相手に対してできることを明確にして、正確にやり抜いたことがチームに勝因をもたらしました。

理事としてメダルを自チーム選手にかける樫塚監督

◆印象に残った試合

国士館大学は対戦した経験も無く、スタイルも全く違ったチームでした。筑波大学は勝つことに経験が豊かで戦い方に慣れていない我々には難しい挑戦となりました。大阪教育大学は戦術も特徴も互いに知り尽くしたチームです。戦術的に多くのバリエーションを持たない我々のチームにとって一戦への戦い方に特徴をつけることは苦しい戦いでした。中でも最も力を結集して戦う相手は経験豊かな筑波大学との戦いだったと思います。個の力で及ばず、部分的な攻防ではバリエーションが足りず、個を殺して全体を生かす方法しか我々には残っていませんでした。試合において、結集できた戦術とは、自分たちから犯したミスで全体を殺さない指示を出してコートに送り出し、この指示を試合のポイントごとに徹底させ、それをゲームの中で生かしたことが勝因の印象として残っています。

◆運　営

部活動のために多くの時間を拘束する学生時代は変わったと感じています。今の学生は昔と比べ器用な生き方を身に付

けており、多くの事を同時にこなしていけること、何かを犠牲にしなくても効率の良いやり方ができ時間を有効に使う方法も知っています。部員を長い時間練習で拘束することは苦痛のみを与え、プラスにはならないと考えるようになりました。練習の効率を上げるために種目から種目への移行は出来なくても前に進める方針を徹底しました。強制することは多くありませんが約束したことは頑固に守らせました。約束を守らない者は、練習へのチャンスもユニフォームを着るチャンスも与えませんでした。いろいろな犠牲を払ってもチームの雰囲気は暗くなりませんでした。しかし、どこかさめているところがある若者は昔よりチームをまとめることは難しいと感じることもあります。

◆選手への言葉

チームとしてまだ課題を残していたものの今大会に努力の成果として結果に表わした選手には賞賛と感謝の気持ちを表して祝福したいと思います。ハンドボールは一つのボールを媒体に周到な準備を意図的にする活動と、その時々の瞬間にしか考えられない本能的な活動があり、練習では後者の技術を習得させることが大変難しい課題でした。キャリアを持たない選手にこの技術を覚えさせるのは大変でしたが、よく努力したことをチームの誇りに思っています。

◆今後課題と抱負

先人が守ってきた伝統の中には我々が継承していかなければならない大切なものがあります。伝統の中に新しいものを取り入れ、環境に合った工夫と創造の追求無くしてチームの存在はありえないでしょう。時代にそってチーム戦術に合った練習課題の選択を誤らず、チームや個人が納得して集中できる環境作りを工夫して努力を続けたいと考えています。

◆チームの歴史と運営

【歴史】

1968年　同好会結成
1970年　部へ昇格
1971年　活動歴無し
1972年　監督として赴任　　部員2名

☆全日本選手権

・2005年　第41回大会　初優勝
・過去…2位・3回　1981年（第17回）、1985年（第21回、1995年（第31回）、3位・11回（3位決定戦に勝っての3位は8回、決定戦なしのは3回）、4位・3回

☆西日本学生選手権

・1975年　第6回大会で初優勝以来、今年の第35回大会を含め通算17回優勝（第6回から第11回は6連覇、第22回から第25回は4連覇）
・過去…2位・9回、3位・4回、4位・1回

☆関西学生リーグ

・1973年　秋季リーグで初優勝以降、今秋を含め、春季リーグ22回、秋季リーグ19回、通算41回の優勝（1975年秋季リーグから1981年秋季リーグまで13シーズン連続制覇、81連勝を記録）

関東学生ハンドボール連盟運営委員の紹介

私達関東学生ハンドボール連盟は基本的に日本体育大学・日本大学・日本女子体育大学・東京女子体育大学から委員が選出され、現在は男子6名、女子5名の計11名で活動しています。今回のインカレは、1997年に川崎市で開催されてから8年ぶりの関東での開催でした。「学生の、学生による、学生のための大会」という事でしたが、インカレを学生中心で開催するには、多くの失敗や苦労が伴いました。

プログラム校正には、いつもの倍以上の時間をかけ、入場行進曲等の音楽編集に悩み、大会が始まってからも、入場の際の選手誘導に手こずったり、委員に上手く指示が通っていなかった、という様なこともありました。

この様に、失敗や苦労の多い中で大会を運営出来たのは、福地理事長をはじめ、学連OBの先輩や様々な人の協力があったからだと感じています。また、日体大男子・国士舘大男子・東海大男子・関東学院大・大東文化大・日女体大の補助役員にもたくさん助けられました。

私達学連は、関東学連加盟大学のチームが円滑にハンドボールが出来る様に活動していますが、インカレを通じて、私達も活動するために多くの人々の力を借りている、という事を改めて実感しました。たくさんの人に支えられて、この様な大会を終わる事が出来た事に対し、心から感謝すると共に、これからの活動に繋げていきたいと思います。（平成17年度総合委員長　小島 康次）

（財）日本ハンドボール協会元副会長

中澤 重夫氏

瑞宝小綬章 受章のお祝い

（財）日本ハンドボール協会専務理事　大西 武三

平成17年秋の叙勲において、既報の通り、本協会中澤重夫元副会長が瑞宝小綬章を受章されました。これは、中澤元副会長の永年に亘るハンドボールに対する業績であり、日本ハンドボール界にとっても、喜ばしい栄誉であります。

中澤元副会長は、昭和7年長野県長野市のお生まれで、昭和33年に長野県の名門上田松尾高校（現上田高校）でハンドボール部の創部に参加、ハンドボールを始められました。その後芝浦工業大学に進まれ、卒業後は同大学に残られ、教育・研究活動を続けられると共に、ハンドボール部のコーチ、助監督、監督と指導者の道を歩まれました。

そして、昭和30年代から40年代にかけてハンドボールを経験した人にとって、その名を忘れることの出来ない芝浦工業大学の黄金時代を築かれています。この間、全日本学生王座決定戦優勝8回、全日本学生選手権（インカレ）優勝8回、全日本総合選手権優勝3回、全日本総合室内選手権優勝4回など多くの全日本大会で優勝を飾られていますし、関東学生リーグにおいては、春、秋合わせて16回の優勝を遂げられています。当時まさに、ハンドボールと言えば芝浦工業大学と一般人々までが知っていると言う戦績を挙げられています。

協会関係役員としては、昭和30年全日本学生ハンドボール連盟理事に就任したのを皮切りに、日本協会理事、同評議員、同専務理事、同副会長、全日本学生連盟理事長、同副会長、関東学生連盟理事長、東京都協会理事長などを歴任されています。

日本協会役員としては、昭和33年に理事に就任されて以来、平成4年に専務理事、平成10年に副会長と歴任され、通算37年間（又評議員等を加えると40余年）の長きに亘り、日本ハンドボール界のためにご尽力いただいてきましたが、これは荒川清美元副会長の43年間に次ぐ功績であります。

この間のご功績については枚挙にいとまがないのですが、特にヨーロッパ以外で始めて開催された男子世界選手権の熊本開催が特筆されると思われます。中澤元副会長は招致の検討段階からさまざまなご努力を重ねられ、大会を大成功に導かれました。さらに、国際ハンドボール連盟から、これからの世界大会のスタンダードになるであろうとの讃辞を戴き、国際的に栄誉あるハンス・バウマン賞を日本協会が受賞することになったのであります。

昨年12月12日原宿駅前「南国酒家 原宿店」にて、お祝いの会が開催されました

この度の中澤元副会長の受章を、日本ハンドボール界としてお祝い申し上げると共に、永年にわたって培われたご経験とご知識を活かし、引き続き日本ハンドボール界の発展のためにご指導、ご鞭撻戴ければと願っております。

Power & Value

IDEA TECHNOLOGY MATERIAL

力の結集が新たな未来を創り出す。

www.daido.co.jp

若い力に大きな期待

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー
Free Throw

2006年が明けた。近ごろは世界スポーツ界が急速にスピード化されてきたからかもしれないが、なんだか１年が経過するのが早い気がする。あっという間に１年が過ぎ去ってしまう。

早いといえば、日本ハンドボール界の今や悲願である北京オリンピックまでもう２年と迫ってきた。日本はご存じのように1988年のソウルオリンピック以来出場できていない。前回のアテネ大会予選では、女子が本大会で銀メダルを獲得した韓国と引き分け、男子も韓国に引き分けるなどあと一歩のところまで力をつけてきた。言い換えれば「出場への光」が射し込んだと言っていいだろう。

そうした現状を踏まえて日本協会は、これまでとは違って早い対応策を取ったことは喜ばしいことである。先にも何度か書いてきたが、日本のメディアはハンドボールだけでなく、スポーツ界全般にわたってオリンピック至上主義である。大げさな言い方を許していただければ、オリンピックに出場しない競技はスポーツではないといった感さえある。悲しい出来事ではあるが、まだまだスポーツ文化が低い日本では、そうした状況から脱皮できていないのではないかと思う。それだけに「何が何でもオリンピック出場」を果たさない限りメディアの関心は薄いのだ。

これまではオリンピックイヤーが終わると、再始動までには「エアポケット」があった。だが、現在はそれでは到底間に合わない。そうしたことに敏感に反応したのが「北京」へ向けての対応だろう。2007年にドイツで開催の世界選手権予選を兼ねて２月にタイで開かれる男子のアジア選手権に備え、西アジア地域の情勢収集にコーチを派遣したことは、その強化路線に乗ったものの一つの現れだ。

現代、世界の戦いの中では、情報収集は欠かせない重要なテーマである。それに取り組むことはかつてなかったことであろう。いろいろな競技においては今、情報収集・分析者のスカウティングは当たり前のことである。

現在、Ｊリーグ・サンフレッチェ広島で監督をしている小野剛氏は、その道のスペシャリストと高い評価を受けていた。相手の長所、短所を探れるため変装までして相手の練習会場にもぐりこんだという話を本人から聞いたことがある。その結果がオリンピックでのブラジル撃破、さらには日本サッカー界の悲願だったワールドカップ出場へつながったことは間違いない。

Ｊリーグでは、次の対戦相手へのスカウティングは今や当たり前になっている。試合会場では必ずと言っていいほど、両チームの関係者が鋭くピッチを見つめているのだ。それほどサッカー界では情報収集なくしての戦いは考えられなくなっているのだ。

世界選手権出場が北京オリンピックへの道につながることは紛れもない事実である。

一方で、トップ強化と並行して進めなければならないのが、次の世代の強化である。確かに北京にはトップ強化はもちろんだが、さらに将来の展望も忘れていては、出場が実現したとしてもまた心細くなりかねない。そうした意味からも今夏、広島で開催されるアジアジュニア選手権は大いに注目される大会だ。次の世代を担う逸材がまたとない経験が得られることは大いに役立つはずだ。

昨年末、雪の福井で行われた全日本総合選手権に男子高校３冠王・興南が出場は、実に30年ぶりの高校男子の登場だった。しかも初戦で学生チャンピオン筑波大に堂々と渡り合う戦いを演じた。惜しくも１点差で敗れはしたが、各選手に与えたインパクトは今後に素晴らしい財産を残したと言えるだろう。学生に堂々と勝負を挑んだ若さ、そこで得た自信、そしてアジア、さらに世界で戦う喜びを知ることは「あす」への糧になるのは間違いない。ひとつきっかけをつかめば、想像もつかないほど成長するのが若さの特権でもある。

アジアジュニア選手権、世界女子ユース大会（８月・カナダ）に臨む日本の若い芽たちが「躍進」という楽しみと希望につながる。トップの成績とともに、こちらの結果からも目が離せない重要な、そしてチャレンジする2006年であると思っている。

大規模・高速・高効率 IPS
三菱重工
インテグレーテッド
パーキング
システム
三菱立体駐車場
三菱重工業株式会社　本社　立体駐車場事業ユニット
東京都港区港南2-16-5　〒108-8215　TEL.(03)6716-4191

立山アルミ

自然換気システム「NAV-Window-21」は、各地の体育館・大空間施設で採用されています。

日本体育大学健志台キャンパス体操競技館

安濃町安濃中央総合公園体育館

東京外国語大学屋内運動場

建物を呼吸させせよう

風の道をつくり、自然換気をする建築は、世界的に見て、
確かなひとつの流れとなっています。
NAVウィンドウ21は、「風」という自然エネルギーを利用した、
爽やかで効率のよい自然換気を実現するシステムです。

※採用全物件数 100件突破

※上記の採用物件数は、採用ビル建築の総数を示します。

自然換気システム商品シリーズ

〈スウィンドウ／ウィンコン／キャブコン〉

「平成16年度地球温暖化防止活動環境大臣賞 受賞」について

当社が実施してきた10年間に亘る自然換気システムの開発への評価、また製造販売活動を通じ自然換気システムを採用いただいたビル建築が100件を超え、年間で13,000tのCO_2排出削減（森林面積で5,600ha≒皇居面積の約60倍相当）に貢献している点が評価されました。

立山アルミニウム工業株式会社 | 本社/〒933-8602 富山県高岡市早川550〈ビル建材事業部〉 TEL（0766）20-3321
立山アルミ ホームページ http://www.tateyama.co.jp/

第30回日本ハンドボールリーグ レギュラーシーズン日程表（第12週～23週）

週	月日（曜）	開催地	会場	1部男子		女子		2部男子	
				時間	組合せ	時間	組合せ	時間	組合せ
12	12/3（土）	埼玉	八潮市立鶴ヶ曽根体育館	14:00～	大崎電気×ホンダ				
		愛知	刈谷市体育館	15:00～	トヨタ車体×ホンダ熊本			13:00～	ﾄﾖﾀ自動車×北陸電力
		広島	佐伯区スポーツセンター	14:00～	湧永製薬×大同特殊鋼				
13	12/10（土）	愛知	岡崎中央総合公園総合体育館	14:30～	トヨタ車体×大同特殊鋼			12:30～	ﾄﾖﾀ自動車×ＨＣ東京
		三重	鈴鹿市体育館	14:00～	ホンダ×ﾄﾖﾀ紡織九州				
		熊本	熊本県立天草工業高校体育館	14:00～	ホンダ熊本×大崎電気				
	12/11（日）	愛知	知立市福祉体育館	12:30～	大同特殊鋼×ﾄﾖﾀ紡織九州				
				14:30～	トヨタ車体×ホンダ				
		熊本	宇城市松橋総合体育文化ｾﾝﾀｰ	14:00～	ホンダ熊本×湧永製薬				
14	12/17（土）	愛知	豊田合成㈱健康管理センター					15:00～	豊田合成×ＨＣ東京
	12/18（日）	佐賀	トヨタ紡織九州ｸﾚｲﾝｱﾘｰﾅ	11:00～	ﾄﾖﾀ紡織九州×湧永製薬				
		大分	大分県立総合体育館	12:50～	大同特殊鋼×ホンダ熊本				
				14:30～	大崎電気×トヨタ車体				
15	1/7（土）	埼玉	富士見市立市民総合体育館	14:00～	大崎電気×ﾄﾖﾀ紡織九州				
	1/8（日）	東京	駒沢屋内球技場					14:00～	ＨＣ東京×豊田合成
		奈良	生駒市市民体育館	13:00～	ホンダ× ホンダ熊本				
		山口	周南市総合スポーツセンター	14:00～	湧永製薬×トヨタ車体				
16	1/14（土）	岩手	花巻市総合体育館	14:00～	大崎電気×大同特殊鋼				
		福井	北陸電力福井体育館フレア					14:00～	北陸電力×ﾄﾖﾀ自動車
		広島	佐伯区スポーツセンター	14:00～	湧永製薬×ホンダ				
		佐賀	トヨタ紡織九州ｸﾚｲﾝｱﾘｰﾅ	14:00～	ﾄﾖﾀ紡織九州×ホンダ熊本				
		鹿児島	霧島市国分総合体育館（旧国分市総合体育館）			14:00～	ｿﾆｰｾﾐｺﾝﾀﾞｸﾀ九州×北國銀行		
	1/15（日）	熊本	山鹿市総合体育館			13:00～	オムロン×広島ﾒｲﾌﾟﾙﾚｯｽﾞ		
17	1/21（土）	鹿児島	ｿﾆｰｾﾐｺﾝﾀﾞｸﾀ九州㈱体育館			14:00～	ｿﾆｰｾﾐｺﾝﾀﾞｸﾀ九州×ＨＣ名古屋		
	1/22（日）	石川	小松総合体育館			13:00～	北國銀行×オムロン		
18	1/28（土）	石川	金沢市総合体育館			13:00～	北國銀行×ＨＣ名古屋		
		福井	北陸電力福井体育館フレア					14:00～	北陸電力×豊田合成
		広島	東区スポーツセンター			14:00～	広島ﾒｲﾌﾟﾙﾚｯｽﾞ×ｿﾆｰｾﾐｺﾝﾀﾞｸﾀ九州		
19	2/4（土）	愛知	三好公園総合体育館			14:00～	ＨＣ名古屋×オムロン	12:00～	ﾄﾖﾀ自動車×ＨＣ東京
	2/5（日）	石川	小松総合体育館			13:00～	北國銀行×広島ﾒｲﾌﾟﾙﾚｯｽﾞ		
20	2/11（土）	鹿児島	ｿﾆｰｾﾐｺﾝﾀﾞｸﾀ九州㈱体育館			14:00～	ｿﾆｰｾﾐｺﾝﾀﾞｸﾀ九州×広島ﾒｲﾌﾟﾙﾚｯｽﾞ		
	2/12（日）	愛知	ブラザー工業体育館			14:00～	ＨＣ名古屋×北國銀行		
21	2/18（土）	東京	駒沢屋内球技場					14:00～	ＨＣ東京×北陸電力
		愛知	ブラザー工業体育館			16:00～	ＨＣ名古屋×ｿﾆｰｾﾐｺﾝﾀﾞｸﾀ九州	14:00～	豊田合成×ﾄﾖﾀ自動車
		京都	京都市体育館			15:00～	オムロン×北國銀行		
22	2/25（土）	愛知	中村スポーツセンター	13:00～	大同特殊鋼×湧永製薬				
		三重	本田技研健保体育館	14:00～	ホンダ×大崎電気				
		広島	東区スポーツセンター			14:00～	広島ﾒｲﾌﾟﾙﾚｯｽﾞ ×ＨＣ名古屋		
	2/26（日）	東京	駒沢体育館					14:00～	ＨＣ東京×豊田合成
		熊本	水俣市立総合体育館	13:00～	ホンダ熊本× トヨタ車体	14:40～	オムロン×ｿﾆｰｾﾐｺﾝﾀﾞｸﾀ九州		
23	3/4（土）	三重	鈴鹿市体育館	14:00～	ホンダ× 大同特殊鋼				
		広島	東区スポーツセンター	14:40～	湧永製薬×大崎電気	13:00～	広島ﾒｲﾌﾟﾙﾚｯｽﾞ×オムロン		
	3/5（日）	石川	小松総合体育館			13:00～	北國銀行×ｿﾆｰｾﾐｺﾝﾀﾞｸﾀ九州		
		佐賀	トヨタ紡織九州ｸﾚｲﾝｱﾘｰﾅ	13:00～	ﾄﾖﾀ紡織九州×トヨタ車体				

月日（曜）	開催地	会場	時間	組合せ
3月18日（土）	東京	駒沢体育館	13:00～	(1) 女子・プレーオフ準決勝 （通算2位） vs （通算3位）
			15:00～	(2) 男子・プレーオフ準決勝 （通算1位） vs （通算4位）
			17:00～	(3) 男子・プレーオフ準決勝 （通算2位） vs （通算3位）
3月19日（日）	東京	駒沢体育館	13:00～	女子・プレーオフ決勝 （通算1位） vs (1)の勝者
			15:00～	男子・プレーオフ決勝 (2)の勝者 vs (3)の勝者

開幕戦から（2005. 9. 3）　©CHIKAHISA

◎JHLホームページにチーム情報、全日程、会場案内を掲載しています。
http://www.jhl.handball.jp/
http://www.jhl.handball.jp/i/（i-mode 対応用）

ハンドボールのゲーム分析からみたチーム間差に対する有効な攻撃戦術に関する研究

―女子アテネオリンピック決勝のゲームから―

山本 忠志（兵庫教育大学）

目 的

本研究は、体力差や体格差のあるチームが、どのようにしてこれらを克服してゲームを進め、チームを勝利に導くかを検討するための攻撃戦術を明らかにすることが目的である。そのために、2004年開催されたアテネオリンピックの女子決勝戦（韓国対デンマーク）のゲーム分析からデンマークと韓国チームの遅攻時の集団攻撃戦術の特徴について比較・検討することにより、体力や体格差があるチーム間差に対する有効な攻撃戦術を明らかにする。

方法：
ゲーム分析からみた有効な集団攻撃戦術の検討

(1) 対象ゲーム

アテネオリンピックの女子決勝戦の韓国とデンマーク戦を対象とした。

(2) ゲーム分析の方法ならびに項目

シュート場面が客観的および能率的に記録できるハンドボール用試合分析プログラミングによって時間的流れに沿って記録した。分析項目は、攻撃完了率、シュート成功率、攻撃型、シュートの地域区分、シュートのポジション別の得点率である。それぞれの結果から韓国チームの攻撃戦術についてまとめる。

結果および考察：
ゲーム分析からみた有効な集団攻撃戦術の検討

韓国の平均身長が171cm、体重63.4kgに対して、デンマークは平均身長が176cm（体重は不明であるが確かに韓国を上回るものである）と体格、体力ともにデンマークが優れていることがわかった。ゲームは同点で終了し、第1、第2延長も同点で終了、7mスローコンテストとなりデンマークが最終的には優勝した。

このゲーム分析の結果、遅攻における両チームのシュートはともにロングシュートの出現が最も多く認められた。ところが、その得点率はデンマークが82.3%であったのに対して、韓国は46.1%と低かった。そのため、韓国ではサイドとポストの得点率が53.9%と高くなった。すなわちデンマークは体格や体力を活かしてのロングシュートを上手く得点につなげていることがわかった。一方、韓国はどこからでも得点できるようにコートプレーヤー一人一人がディフェンスとの関係において、役割をきっちりこなして得点していることがわかった。さらに遅攻における集団攻撃戦術をみてみると、デンマークは遅攻における全攻撃54回の内クロスを使っての攻撃が23回(42.5%)あった。これに対し、韓国は、遅攻全攻撃49回の内クロス攻撃が9回（18.3%）であり、相手とのズレをつくるオープン攻撃が20回（40.8%）と多く認められた。このことからもチームの特性が活かされる攻撃戦術を持ちながら得点機会を狙っていることが示された。このように、それぞれのチームでそれぞれのプレーの特徴を捉えることができたわけであり、それらの結果がデンマークと韓国の身長や体重による体格や体力差を埋めるための集団攻撃戦術として考えることができると思われる。

そこで、韓国の遅攻での集団攻撃戦術を時間経過とともにみてみると、前半からコート中央の2対2における攻撃を中心に組み立てられていることが示された。そこが起点となって攻撃されることによって、両45度のディフェンスがセンターに少しよる。このことにより、攻撃側の45度が外側に少しずれることで45度へのパスへと展開されることが、横へのずらしとなってそのままカットインで入るか、サイドまでパスを回すかという攻撃になっていることがみられた。その結果がどこのポジションからもシュートを決めていることになったものと考えられる。また、この攻撃は3次的な速攻場面でもみられる攻撃戦術であった。

また、クロスした場合では、クロスしたプレーヤーにディフェンスが引き連れられた裏をつくというリターンパスによるディフェンスとのズレによる攻撃戦術も後半にみられた。このことは、攻撃の一連の方向性を変えることにつながり、ディフェンスの迷いを誘うことになったと考えられる。

これらの結果から、体格や体力差に対し、どうしても上から攻めることは難しくなる。このため、ディフェンスの間をどのように攻めるかという、横のズレをつくるという攻撃戦術が有効であることが示唆された。

アテネオリンピック女子決勝より　　IHF提供写真

豊かな明日を切り開く、大崎マインド。

限られた資源だから、有意義に使っていきたい。命あるものたちが共存する地球だから、快適な環境を守っていきたい。
計測・制御の専門メーカーとして時代をリードする大崎は、ユニークな発想と探究心で省エネ、省力化機器など、つねに技術革新をこころがけています。

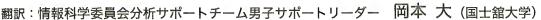
大崎電気工業株式会社
本社 〒141-8646 東京都品川区東五反田2-2-7 TEL.(03)3443-7171(代表)

WHM

第1回男子ユース世界選手権（カタール）の分析

未来への刺激 ―さらなる競技力の向上―

国際ハンドボール連盟（IHF）の機関誌であるワールド・ハンドボール・マガジン（WHM：年4回発行）には不定期で世界大会の分析が掲載されます。2005年3号には2005年8月に開催された男子ユース世界選手権の分析がIHF（CCM）Dietrich Spate氏により行われ、掲載された。今号では、岡本大氏（国士舘大学）の翻訳により掲載いたします。次号では今ユース大会の特徴の一つである3－3ディフェンスの分析を掲載いたします。
※原文は多くの連続写真が掲載されていますが、本誌では紙面の都合上掲載できません。（編集委員会）

翻訳：情報科学委員会分析サポートチーム男子サポートリーダー　岡本 大（国士舘大学）

ユース世界選手権：ジュニア世代との体系化に世界的な刺激

2005年、IHFは初めてのユース世界選手権（18歳以下）を開催した。この大会には2つの中心的な目的がある。それは、
①特にヨーロッパ地域以外の国のジュニア体系の発展を促進
②特にヨーロッパ地域以外の国々の競技水準向上
である。

まず大会を振り返ってみると、これらの目的は十分に達成されていた。ヨーロッパ地域以外の多くの国で、競技のカテゴリーやユース以下の年齢区分がこの新しい形式に順応されていた。いくつかの国々はこの新しい大会を、ジュニア体系の統合を展開するための機会として利用していた。

例えば、この大会におけるアルゼンチンやイランの優れた競技力は、ヨーロッパ地域以外の国の将来におけるさらなる競技力向上を証明した。このことは将来のハンドボール界発展にとって重要で画期的な出来事である。

ユースにおいても速い試合展開

表1の結果が示すように、1試合の攻撃回数は男女の国際大会より多く、1回の攻撃に要する時間は平均で27.8秒であった。さらに詳細な分析結果（表2）で示されるように、10チームすべてが60回を超える攻撃回数であった。

またミス率においては上位4チームは他の男子大会に近い値であった（表2のミス率参照）。7位以下のチームでは大変高いミス率であった。

一方で、ほぼすべてのチーム（クロアチア以外）が他の男子大会と同様に絶え間なく素早いプレーを選択していた。例えば、クイックスローオフは大会全体を通して行われ、前回の世界選手権（2005：チュニジア）よりも大変多く実行されていた。

セットオフェンスにおける大きな相違

ヨーロッパ地域のチームは攻撃を成功させること、特にバックコートプレーヤーの活躍（表3）に関しては最高の評価を獲得した（表2）。将来ヨーロッパ地域以外のチームがさらなる向上を目指すならば、戦術的にきちんと組織化されたセットオフェンスとバックコートプレーヤーのパフォーマンスの向上のためのトレーニングに特に焦点をあてる必要がある。

近年、男子ハンドボールで卓越していたポストプレーはユースの大会でもみられた（表3参照）。アルゼンチンは驚くことにほとんどの得点をゴールエリアから獲得していた。特にバックコートプレーヤーはパスの方法において多くのバリエーションを有していた。

ディフェンスにおける戦術の相違点

韓国とエジプトは極端に攻撃的なディフェンスシステムを採用していた。彼らの最も攻撃的な配置は、3-3ディフェンスにおいてセンターライン付近からすでに相手をディフェンス仕始めるというものであった。

対照的にデンマークとクロアチアは主に守備的な方法を選択していた。両チームとも対峙する相手よりも極端にボール中心に人数を集めて守備するというものであった。最もバリエーション豊富なディフェンス活動で、頻繁にシステムを変化させていたのはチャンピオンに輝いたセルビア・モンテネグロであった。優れた特有のディフェンストレーニングはプレーヤーに利益をもたらすことを明確に示している。

表1　高速ハンドボール：男子の大会における攻撃の分析

大会名	試合数	攻撃回数（1試合）	攻撃時間（1回：秒）
第1回世界ユース2005	27	129.4	27.8
チュニジア世界選手権2005	86	120.2	29.9
アテネオリンピック（男子）2004	44	115.7	31.1
アテネオリンピック（女子）2004	33	124.5	28.9

表2　オフェンス・ディフェンス及びGKのパフォーマンス

	オフェンス				ディフェンス		GK
チーム名	攻撃回数	攻撃成功率（%）	ミス率（%）	アシスト	インターセプト	シュートブロック	シュート阻止率（%）
1.セルビア・モンテネグロ	64.7	63.0	19.3	24.2	5.7	6.5	40.2
2.韓国	68.5	49.6	21.2	22.2	6.2	0.7	29.0
3.クロアチア	61.2	56.1	20.2	20.0	3.0	3.2	32.7
4.デンマーク	60.7	61.6	18.7	22.0	4.0	3.8	40.9
5.カタール	68.8	56.2	24.1	18.0	5.6	4.4	34.1
6.エジプト	65.2	55.8	18.7	22.0	5.0	1.0	33.9
7.アルゼンチン	66.2	55.2	27.5	19.6	9.2	2.2	31.2
8.イラン	63.0	46.2	27.6	14.6	3.8	1.4	30.5
9.チュニジア	62.0	50.8	29.7	16.4	4.0	2.4	29.9
10.モロッコ	67.8	46.7	40.4	13.8	3.4	1.4	29.7

表３　ポジション及びシチュエーションごとの得点割合と成功率

	ポスト		サイド		９m		カットイン		速攻		７m	
チーム名	割合	成功率	割合	成功率	割合	成功率	割合	成功率	割合	成功率	割合	成功率
1．セルビア・モンテネグロ	25.1	59.6	15.2	59.3	15.6	42.9	13.7	93.6	25.6	77.1	4.7	71.4
2．韓国	23.8	60.6	12.7	38.3	22.1	30.5	11.1	74.1	16.6	68.2	13.8	78.1
3．クロアチア	26.6	52.7	19.6	65.5	22.3	40.2	15.2	84.9	8.2	62.5	8.2	71.4
4．デンマーク	19.6	58.2	19.6	58.2	25.1	50.6	10.6	91.3	19.6	75.0	5.5	73.3
5．カタール	22.0	56.3	10.4	48.6	21.3	35.4	23.8	88.6	14.6	70.6	7.9	81.3
6．エジプト	22.5	63.2	18.4	47.5	18.8	34.9	8.1	92.9	23.1	77.1	9.4	71.4
7．アルゼンチン	38.5	58.5	16.1	50.0	13.3	34.6	4.9	70.0	21.0	71.4	6.3	75.0
8．イラン	26.5	50.0	17.1	37.0	19.7	29.5	6.8	88.9	15.4	72.0	14.5	68.0
9．チュニジア	30.2	60.3	20.6	46.7	18.3	32.4	6.4	89.0	11.1	70.0	11.9	62.5
10．モロッコ	33.0	51.5	24.3	44.6	9.7	18.9	13.6	100.0	14.6	75.0	4.9	41.7
全体	26.1	57.0	17.1	49.6	19.1	35.7	11.8	87.0	17.4	72.8	8.5	70.3

出場国が用いたディフェンスシステムの分析

セルビア・モンテネグロ：柔軟なディフェンス活動！

サイドのディフェンダーが攻撃的に内側に位置し、ボール中心の6-0ディフェンスシステムをしている。サイドディフェンスがバックコートプレーヤーにアタックすることもある。5-1ディフェンスシステムは、トップディフェンダーが中央で大変攻撃的に前方に位置し、バックコートプレーヤー間のパスコースを遮断している。すべてのディフェンダーがボール中心にディフェンス活動をしている。右側のディフェンダーは左バックコートプレーヤーへのパスコースを妨げる様な動きを行う。

第１回ユース世界選手権でのディフェンスの特徴は、全体的に柔軟な活動がなされていた点である。頻繁にディフェンスシステムを変化させ、個々のディフェンス配置も様々な方法がみられた。

韓国：柔軟な3-3ディフェンスシステム

韓国は大変攻撃的な3-3ディフェンスシステムの基本的な配置としていた。３人の攻撃的なディフェンダーがセンターラインのすぐ後ろ付近で相対するオフェンスプレーヤーをマンツーマンでマークする。攻撃の組み立てを始める時にはすでにバックコートの深い位置で混乱させられている。ボールを所持しているプレーヤーには即座に接近してプレッシャーをかける。中間に浮いてくるポストにはマンツーマンでついていく。それでも、韓国はマンツーマンディフェンスとしてではなくシステムとして守っている。攻撃のプレーヤーは特にゴールエリアに近い所では、ダブルポストに入っていくか、パスを回すか、ディフェンダーを連れて動くことが実行可能である。ディフェンスのスタート配置がいくらか守備的になったもので、この3-3ディフェンスの柔軟性を表している。

クロアチア：6-0と3-2-1ディフェンスシステムの戦術的な使い分け

ここ最近のクロアチアの代表チームは3-2-1ディフェンスで試合を始める。攻撃チームがダブルポストになっても、幾分かしか守備的にならず、基本システムは変化させない。

ボール中心の6-0ディフェンスも行う。クロアチアは攻撃的な3-2-1ディフェンスの後、後半でしばしばこのシステムを使用する。この6-0ディフェンスは基本システムとしてこの大会で使用されていた。特にセンターディフェンダーのシュートブロック活動は優れていた。戦術的バリエーションとして特に数的優位な状態の時みられた4-0+2ディフェンスシステムがある。このシステムの特徴は２人の攻撃的なディフェンダーが共にボールのある方向へ移動するものである。したがって攻撃側は攻撃し始めるときにはすでに邪魔をされることになる。

デンマーク：スウェーデン式6-0ディフェンスシステム

デンマークの基本は6-0ディフェンスである。攻撃のセンターからポストへのパスを右45のディフェンダーがカットするようなディフェンストライアングルを形作ることもある。またディフェンス活動の基本方針が、内側に位置するディフェンダーが三角形の配置を築きながらすべてボールと関係するスウェーデンの6-0ディフェンスシステムの特徴を使用している。

この大会においてデンマークはベストの6-0ディフェンス活動をした。にもかかわらず時として5-1ディフェンスも使用した。この際、左サイドディフェンダーは柔軟に活動し、時折コート中央まで攻撃的にディフェンス活動をした。

カタール：より守備的な中央の壁の6-0ディフェンスシステム

カタールは最初基本のディフェンスシステムとして6-0ディフェンスを使用した。しかしながらデンマークやクロアチアとは対照的にカタールのディフェンス活動は中央のディフェンダーはより守備的な配置をするものであった。ゴールキーパーと協調してシュートを遮断し、またポストプレーヤーへのパスを妨げる目

的であった。

しかしながら、いくつかの試合では、マンツーマンに近い5-1ディフェンスを使用した。大変攻撃的なトップディフェンダーを配置するディフェンスシステムである。もし攻撃側がダブルポストに変化してきたとしても、この基本隊形を維持し、しばしば高い位置においてマンツーマンで守備し、攻撃側にとって広いスペースがうまれていた。

エジプト：きわめて攻撃的で積極的な3-3ディフェンスシステム

トップのディフェンダーが、時には相手コートにさえも入っていくといった大変攻撃的な3-3ディフェンスを行う。この方法は攻撃側が相手コートに入る時にはすでに邪魔をされており、ボールを運ぶ途中には攻撃の組み立てを妨げられている。全体としてエジプトはとても変化に富んだディフェンス活動をした。3-3ディフェンスより守備的な5-1ディフェンスでは、ボールと反対側のディフェンダーが牽制活動をする。またエジプトは特に数的優位の状況においては攻撃的な4-0+2ディフェンスシステムを使用した。これらのディフェンスシステム（エジプトは高い位置で大変柔軟な3-3ディフェンスも使用した）は、対戦相手や試合展開によって意図的に変化させられていた。

アルゼンチン：素早いフットワークによるボール中心の5-1ディフェンスシステム

アルゼンチンの基本システムである5-1ディフェンスである。攻撃側の右45によるコート中央方面への有効的なパスを妨げている。ボールの無い側では右45ディフェンダーは積極的にポストを運び込み、そして攻撃側の左45に対するディフェンスポジションもとる。

ダブルポスト攻撃に対しても5-1ディフェンス隊形を維持している。トップディフェンダーはボールに集中しながら横への対応の動きを試みる。従って対角のポストへのパスも妨害する。数的優位の状況においては、アルゼンチンはエジプトや韓国のディフェンスの戦術的基本原則と似た攻撃的な3-3ディフェンスを使用した。

イラン：ボール中心の5-1ディフェンスシステム

イランは相手のオフェンスを攻撃的に高い位置で邪魔をするトップディフェンダーを擁し、5-1ディフェンスを基本としていた。ダブルポストの攻撃に対しては一貫してボールの方へ移動し、バックコートからのシュート（ここでは左45）はシュートブロックするといった方法で5-1隊形を維持していた。しかしながら、一般にこのシチュエーションではボールの無い左側では、攻撃側に明確な数的優位な状況が発生する。

チュニジア：5-1ディフェンスシステムから変化するディフェンス活動

チュニジア代表トップチームのディフェンス活動と同じように5-1ディフェンスを行う。攻撃側の左45にボールがある時、トップディフェンダーは攻撃的に大変高い位置まででている。ボールが自分の側に無い間、左45ディフェンダーは大変内側に移動して位置をとっている。左サイドディフェンダーも内側に位置し、攻撃側の右45バックコートプレーヤーに対して積極的にディフェンスする。チュニジアはこの基本システムからさまざまな方法に変化して活動できる。攻撃側がダブルポストに移行して攻撃してきた時には5-0+1でディフェンスを行う。また、攻撃的な4-2ディフェンスもあり、いくつかの試合では戦術的バリエーションとして3-3ディフェンスもみられた。この場合攻撃的なディフェンダーは純粋にマンツーマンではなく、高い位置でボール中心に柔軟に活動した。

モロッコ：3-3ディフェンスシステムまで変化するディフェンス

モロッコもまた5-1から4-2や攻撃的な3-3へと、変化に富んだディフェンス活動をみせた。高い位置取りのトップディフェンダーとフリースローライン前の45ディフェンダーによる攻撃的な3-3ディフェンスである。モロッコは時にはセンターライン近くまで3-3ディフェンスで押し上げた。極めて攻撃的なディフェンスの基本隊形をとっていた。ダブルポストに対してはディフェンシブな5-1ディフェンスを維持し、トップディフェンダーは絶えずボール側へ位置を移していた。

KIRIN
時代を超えた、昭和のラガー。
キリンクラシックラガー
飲酒は20歳になってから。お酒は楽しく、ほどほどに。のんだあとはリサイクル。
www.kirin.co.jp/chugoku キリンビール株式会社 中国地区本部

asics

俊敏ワイド。ゲルブレイブ、デビュー。

ラウンドオブリークが指周りにゆとりを生み、柔らかく足あたりのいいアッパー構造。
俊敏にしてダイナミックなプレーをサポートするゲルブレイブ。カラーも鮮やかに、デビューだ。

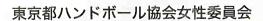
ゲルブレイブ
GELBRAVE WIDE
THH513 ¥12,600（本体¥12,000）
カラー：0490 イエロー×ブラック
　　　　5001 ネイビー×ホワイト
サイズ：23.0～29.0・30.0cm

0490

5001

株式会社アシックス

アシックスシューズのストライプデザインはアシックスの商標であり、世界の多くの国で登録された商標です。表示価格は消費税込みのメーカー希望小売価格です。( )内は消費税抜きの本体価格です。
http://www.asics.co.jp 商品についてのお問い合わせは「アシックスお客様相談室」までどうぞ。03-3624-1814、06-6385-1155

「ハートボール」：女性だけの大会を実施

東京都ハンドボール協会女性委員会

スポーツの楽しみ方が多様化している現在、「ハンドボール」という種目の楽しみ方が画一化されていることから東京都ハンドボール協会女性委員会では、一つのトライアルとして、女性だけで大会を実施する事にチャレンジしました。いきなり公式大会というようなことではなく、まずはテストマッチを開催し、そこから得られた新たな発見や課題を基に今後の大会企画に生かすべくヒントを得ようと考えました。ハンドボールの新たな楽しみ方を検討していく素材作りと位置づけて運営してみた結果、大会のあり方について新たな収穫を得られた１日となりましたので、以下報告いたします。

▶目 的

女性だけの大会を通して、現スポーツ大会のあり方を見直すきっかけづくり。所属や年齢を超えたハンドボール仲間のふれあいと身体を動かす場の提供。ハンドボールを「する」「観る＝応援」「語る」「支える」環境作りの場の提供。審判員の育成。

▶大会名称

女性のみで行う本会の名前をあえて『ハートボール』としました。「女性」「レディース」などといった“性”の表現ではなく、女性ならではの気配りや配慮、心の温かさを大切にしたスポーツの集いという気持ちと、心から心をボールでつなぐ「ハンドボール」を名称に込めてみました。

▶トライアル開催をしてみて

初めて顔合わせ、初めて組むチームにも拘らず、試合中もその他の時間も参加者の笑顔が絶えない１日であったのは印象的でした。参加者個々には技術的な差からか、いささか物足りなさを感じている人もいたようですが、お互いを補完し合い参加者が楽しい雰囲気を作った大会であり、また、女性だけという安心感があったのかホノボノとした空気も流れ、新鮮な気持ちさえ覚えました。参加者は計 82 ＋１名（社会人 13 名、大学生 26 名、高校生 43 名、１歳児１名）でした。

▶審判員

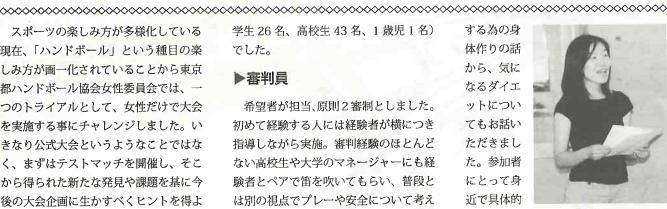
希望者が担当、原則２審制としました。初めて経験する人には経験者が横につき指導しながら実施。審判経験のほとんどない高校生や大学のマネージャーにも経験者とペアで笛を吹いてもらい、普段とは別の視点でプレーや安全について考えてもらう機会になったようです。プレーヤーにも自己申告を促し、進んで審判をしてもらいましたが、ゲームは穏やかに進行したと思います。見ていてすがすがしい気持ちになりました。中には審判をすることが楽しいと感じた参加者もいたようで、審判員を増やす環境作りにも役立てそうです。

▶チーム編成

キーワードに「コミュニケーション」を掲げ、大学院で体験学習の研究をしていた椎名純代さんにお願いしました。心と体の準備運動を兼ねたチーム編成レクリエーションでは初めて顔をあわせる異なる世代のプレーヤーが自然に打ち解けられる雰囲気を作り、チーム別けやゲームに入りやすい雰囲気を作りました。

講習する椎名さん

▶栄養講習会

昼休みを挟んで、色々な種目で栄養面から選手サポートをしている管理栄養士の北村実穂子さんの協力で、女性の為の栄養講習会を開きました。今回はさまざまな参加形態や年齢・職業の方が参加されていることから共通の興味のある講習会企画を行いました。ハンドボールをする為の身体作りの話から、気になるダイエットについてもお話いただきました。参加者にとって身近で具体的な内容であったため、質問が飛び交う講習会となりました。試合の合間などにも質問していた参加者が何人かいたようで、かなり気になる講習会だったようでした。

講習する北村さん

▶１日を通して

開催をしてみて感じたことは、「する」「支える」「語る」「観る」それぞれに関わる人々の「楽しもう」という意識が一つになったとき、心からの楽しさがこの場に生まれ「またやろう」に繋がる事だということです。企画運営者はもちろん、プレーヤー、審判員、観戦者どれが一つでもその「意識」を欠けてはならないと感じました。これは決して難しいことではなく、個々人のちょっとした気配りが集って自然と作り上げられる事だと思いました。

「大会運営はこうやるものだ」、「試合形式はこうあるべきだ」という固定化された視点を「もっとこうしたら楽しい」、「こういう大会があったらいいな」という登録者の意見にこれまで以上に耳を傾け、「こんなに楽しい場所があるんだ」、「あの大会に向けて仲間を集めて練習しよう」、「あの大会を見に行くと元気になれる」というようなワクワク感を持たせる方法は登録者により近い地方協会だからこそ出来ることと思います。

今回は女性に絞り開催してみましたが、コートに集るすべての人の協力と配慮や気配りなくしては成り立たないと感じた１日でした。気配りと安心感、そこに楽しさや活気が生まれハンドボールリピーターが増えるような気がします。

（写真提供は全て都協会女性委員会）

スコアールーム

高松宮記念杯男子第48回・女子第41回 平成17年度全日本学生ハンドボール選手権大会

開催期日：平成17年11月5日（土）～9日（水）・開会式は4日（金）
会　　場：川崎市とどろきアリーナ、法政大学第二高等学校体育館

【男子】

▼1回戦

筑波大　41（19－10、22－９）19　中京大
中央大　32（15－８、17－13）21　関学大
国士舘大　36（14－13、22－７）20　愛学大
大経大　27（15－10、12－10）20　明治大
日本大　41（20－15、21－13）28　名桜大
桃山大　37（19－８、18－18）26　富士大
東海大　39（16－10、23－19）29　高松大
中部大　41（19－７、22－７）14　道都大
日体大　34（19－13、15－７）20　東和大
名城大　25（16－12、９－12）24　福祉大
福岡大　44（21－12、23－４）16　金沢大
法政大　27（13－15、14－９）24　関西大
早稲田大　45（24－４、21－14）18　広経大
順天堂大　37（16－12、21－15）27　愛知大
函館大　38（16－16、22－20）36　大同大
大体大　43（21－５、22－11）16　国武大

▼2回戦

筑波大　34（16－９、18－13）22　中央大
大経大　31（10－14、16－12）29　国士舘大
（2-1延長3-2）
日本大　32（15－11、17－14）25　桃山大
中部大　29（18－９、11－16）25　東海大
日体大　33（15－９、18－11）20　名城大
法政大　27（14－13、13－12）25　福岡大
早稲田大　34（17－13、17－16）29　順天堂大
大体大　42（22－17、20－８）25　函館大

▼準々決勝

筑波大　41（19－11、22－21）32　大経大
日本大　33（15－20、18－11）31　中部大
日体大　32（13－10、19－15）25　法政大
早稲田大　31（13－16、18－12）28　大体大

▼準決勝

筑波大　31（11－14、20－15）29　日本大
日体大　35（15－16、20－14）30　早稲田大

▼決勝

筑波大　35（17－17、18－17）34　日体大

▼成績

優　勝　筑波大学（2年連続3回目）
準優勝　日本体育大学
第３位　日本大学、早稲田大学

▼優秀選手

CP 船木　浩斗（筑波大）
CP 岩永　　生（筑波大）
CP 海道　衛秀（筑波大）
GK 東　　直明（日体大）
CP 東長濱秀作（日体大）
CP 内田　雄士（日本大）
GK 横山　晋也（早稲田大）

▼特別賞

CP 武藤　　剛（日体大）
CP 門山　哲也（日本大）

▼優秀監督賞

大西　武三（筑波大）

【女子】

▼1回戦

茨城大　22（14－７、８－11）18　京教大
福祉大　29（13－10、16－14）24　関西大
日体大　31（15－５、16－８）13　中京大
媛女短大　39（18－６、21－５）11　北星大
大体大　38（21－12、17－15）27　秋田大
日女体大　25（13－11、12－７）18　龍谷大
早稲田大　32（12－12、13－13）30　中女大
（3-2延長4-3）
沖国大　35（17－６、18－９）15　仁女短大

▼2回戦

茨城大　VS　東女体
＊東女体に規程違反（登録外ユニフォーム使用）があり、
茨城大の準々決勝進出とする。
大教大　36（20－５、16－６）11　福祉大
日体大　31（12－８、19－11）19　東海大
福教大　35（18－７、17－14）21　媛女短大
筑波大　31（18－７、13－11）18　大体大
日女体大　20（11－７、９－12）19　福岡大
国士舘大　40（19－９、21－９）18　早稲田大
武庫川大　39（21－４、18－４）８　沖国大

▼準々決勝

大教大　31（18－９、13－７）16　茨城大
福教大　31（13－８、18－13）21　日体大
筑波大　23（11－４、12－11）15　日女体大
武庫川大　26（13－９、13－２）11　国士舘大

▼準決勝

大教大　35（16－６、19－12）18　福教大
武庫川大　27（16－11、11－12）23　筑波大

▼決勝

武庫川大　24（９－６、11－14）21　大教大
（2－1延長2－0）

▼成績

優　勝　武庫川女子大学（初優勝）
準優勝　大阪教育大学
第３位　福岡教育大学、筑波大学

▼優秀選手

CP 北村　恭子（武庫川大）
CP 伊藤亜衣美（武庫川大）
CP 宮本　佳恵（武庫川大）
GK 矢野　佳代（武庫川大）
CP 野路　良子（大教大）
CP 植垣　暁恵（大教大）
CP 樋口　真央（筑波大）

▼特別賞

CP 市村　早紀（武庫川大）
CP 上原　末子（福教大）

▼優秀監督賞

樫塚　正一（武庫川大）

旅の始まりは、エモックから・・・。

Amok Enterprise co.,ltd.

http://www.amok.co.jp

株式会社 エモック・エンタープライズ
国土交通大臣登録一種旅行業１１４４号
(社)日本旅行業協会（ＪＡＴＡ）正会員

東京本社　〒105-0003 東京都港区西新橋1丁目19番3号 第2双葉ビル2階
TEL 03-3507-9777 FAX 03-3507-9771

大阪支店　〒541-0048 大阪市中央区瓦町4-3-14 御堂アーバンライフ1002号
TEL 06-6203-7999 FAX 06-6203-7991

平成17年度10月 常務理事会

日　時：平成17年10月23日（日）
場　所：岡山県・真庭リバーサイドホテル会議室
出席者：渡辺会長、山下副会長、市原副会長、大西専務理事、常務理事9名、監事1名、参事3名

審議事項

1．平成17年度第二次補正予算について
資料により説明がなされた。
来年の世界ジュニアアジア予選、再来年のオリンピック予選にむけて積立金を行う。強化の為に収入増を進める。
女子世界選手権のユニフォーム広告にトヨタ自動車と現在折衝中。
マーケティングに関しては年内に目途をつけ、10万人会とのタイアップも考える。

2．強化関係（女子世界選手権選手団）について
資料により説明。女子世界選手権の役員9名、選手20名の説明。

3．選手育成資金について
資料により説明。留学生制度はアテネプロジェクトで行ったものを参考に具体案を作る。

4．平成18年度NTS関係予算について
資料により説明。NTSは現在上手く進行しているので、今後も拡充発展させる。

5．第57回全日本総合選手権大会について
資料により説明。出場チームは資料の通り。男子には本国体で優勝すれば高校3冠となる興南高校（沖縄県）を推薦する。

6．2005年度読売新聞社「日本スポーツ賞」候補者推薦について
資料により説明。推薦候補を絞り込む。

7．その他
本年度はプロジェクト21のシステムを完成させる。

報告事項

1．平成17年度事業中間報告について

2．強化関係について
12月1日～15日まで西アジアクラブ選手権視察に強化委員を派遣。

3．公認スポーツ指導者制度の競技別指導者マスターについて

4．平成17年度公認スポーツ指導者全国研修について

5．第1回全国中学生大会について

6．平成17・18年度会議日程について

7．平成17年度大会は兼役員、平成18年度大会日程について

8．国際大会スケジュール、女子世界選手権に関連して

9．日本リーグについて
第31回大会は1部男子10チームで行う。特別登録はインカレ終了後に開始する。

10．全日本学生選手権大会について
空位であった全日本学連会長に追本氏（松竹社長）、関東学生連盟会長に平沢氏（自民党衆議院議員）が就任。

11．10万人会について

12．その他
なし

〈その他資料〉
1．平成17年度9月常務理事会議事録

平成17年度11月 常務理事会

日　時：平成17年11月12日（土）
場　所：岸記念体育会館4F　401/402号室
出席者：山下副会長、大西専務理事、常務理事8名、監事1名、参事3名、事務局2名

審議事項

1．平成17年度第二次補正予算について
資料により説明。
今年度はオリンピックアジア予選の積立金がないので、各部門で節約する。強化予算捻出のためにかなり絞っているが、更に10%の予算削減。

2．平成18年度登録料改訂について
資料により説明。今回の改訂は個人登録料のみで高校、高専は新設、その他は一般Aを除き値上げ、中学生については来年度検討し再来年に導入、小学生についても検討。増収分は各カテゴリーの日本代表チームの補助に活用。登録カードについては従来のものと、クラブニッポンのポイントカードを併用。

3．懲罰規程改正について（スポーツ仲裁機構の仲裁事項挿入）
資料3により説明。スポーツ仲裁機構に委ねる文言を懲罰規程に入れる。

4．報奨金及び選手育英資金について
資料により説明。北京オリンピックに向けての報奨金2000万円を目標に集める。育英資金については更に検討を行う。

5．北京オリンピックアジア予選招致について
資料により説明。更に開催地と話を進める。

6．日本協会グッズの消費税について
資料により説明。協会グッズの値段は、現在消費税込みであり、今後は消費税を設ける。送料に関しては現在通りとする。決定後、速やかに機関誌、HP等を利用して告知する。

7．2005年度読売新聞「日本スポーツ賞」候補者推薦について
資料により説明。高校三冠の興南高校（沖縄県）を推薦する。

8．その他
チェコでの世界女子ジュニア帯同のレポートを提示、説明。

報告事項

1．中澤重夫元副会長叙勲について

2．強化関係について

3．公認スポーツ指導者制度の競技別指導者マスターについて

4．第1回全国中学生大会について

5．第57回全日本総合選手権大会、JOCカップについて
第57回全日本総合選手権大会のテレビ放映時解説者について

6．平成17・18年度会議日程について

7．平成18年度大会日程、国際大会スケジュールについて

8．AHF規則（ジュニア男子アジア選手権に関連し）

9．日本リーグについて

10．大会結果（国体、インカレ）について

11．10万人会について

12．委員会など議事録（ビーチ、競技、全国理事長会、強化、競技者育成）

13．その他
以下のような意見交換がなされた。
①日本リーグ女子にMIE.Violet'IRISが加盟申請。
②2006年8月開催のアジア男子ジュニア大会（広島）の開催権料についてはアジア連盟に確認する。
③プロジェクト21は今年度中にそのシステムを完成させる。
④10万人会のサポート会員が初めて3000人を越えた。連盟へ還元できるように検討。
⑤新聞紙面の広報活動に力を入れる。広報の仕方の工夫をする。
⑥最近若い審判員が育ってきている。
⑦中澤元副会長叙勲の祝賀会を東京で計画する。

〈その他資料〉
1．平成17年度11月常務理事会議事録（案）
2．第3回日本車椅子ハンドボール競技大会資料

平成17年度 第2回理事会

日　時：平成17年11月12日（土）13：00～16：00
場　所：岸記念体育会館4F　401/402号室
出席者：渡邊会長、山下副会長、大西専務理事、理事14名、監事2名、参事11名、

事務局１名

開会に先立ち、先般急逝された金子忠博神奈川県協会理事長に対して黙祷を捧げる。

審議事項

１．平成 17 年度第二次補正予算案について

資料により説明。

来年広島でアジア男子ジュニア選手権、再来年日本でオリンピックアジア予選を行おうとしているが、今年度は積立金ができない状況の説明。

２．平成 18 年度登録料改訂について

資料により説明。今回の改訂は個人登録料のみ。高校、高専は新設、その他は一般Ａを除き値上げ、中学生については来年度検討し再来年に導入、小学生についても検討。増収分は各カテゴリーの日本代表チームの補助に活用。登録カードについては従来のものと、クラブニッポンのポイントカードを併用。

３．懲罰規程改正について（スポーツ仲裁機構の仲裁事項挿入）

資料より説明。スポーツ仲裁機構に委ねる文言を入れる規程は、まずは懲罰規程のみとする。

４．報奨金及び選手育英資金について

資料により説明。報奨金の目的は北京オリンピック出場に向けたモチベーションアップ、男女各 1000 万円、総額 2000 万円を集めることが目標。

５．北京オリンピックアジア予選招致について

資料により説明。

６．日本協会グッズの消費税について

資料により説明。現在、協会グッズの値段は、消費税、送料込み。平成 18 年度始めの４月から外税方式で対応、送料は現在同様にサービスとする。HP、機関誌等で事前に告知する。

７．2005 年度読売新聞「日本スポーツ賞」候補者推薦について

資料により説明。高校三冠の興南高校（沖縄県）を推薦。

報告事項

１．中澤重夫元副会長叙勲について

２．強化関係について

資料により説明。明日、女子世界選手権大会の壮行試合。来年度は世界大会が多いので出る大会を強化部で検討。

３．公認スポーツ指導者制度の競技別指導者マスターについて

資料により説明。平岡氏、緒方氏、笹倉氏を推薦。

４．第１回全国中学生大会について

資料により説明。全県参加する方向で進める。

５．第 57 回全日本総合選手権大会、JOC カップについて

資料により説明。

６．平成 17・18 年度会議日程について

資料により説明。

７．平成 18 年度大会日程、国際大会スケジュールについて

資料により説明。

８．AHF 規則（ジュニア男子アジア選手権に関連し）

資料により説明。

９．日本リーグについて

資料により説明。NPO 法人 MIE Violet'IRIS から日本リーグ加盟申請が出され、第 31 回から参加予定、決定は 12 月。

10．大会結果（国体、インカレ）について

資料により説明。国体は開催地岡山県が天皇杯、皇后杯を獲得。インカレでは、男子筑波大、女子は武庫川女子が優勝し、女子の優勝旗が初めて箱根を越えた。

森安理事（岡山県協会理事長）から国体のお礼が述べられた。

福地理事からは、インカレについて報告。

11．10 万人会について

資料により説明。選手、役員で訳９万人であり、あと１万人で 10 万人になる。現在 3000 人のサポート会員数なので、まだ０人の都道府県に協力を依頼。個人情報関係で住所記入について検討。

12．委員会（ビーチ、競技、全国理事長会、強化、競技者育成）など議事録について

資料により説明。

13．その他

1）女性委員会より。来年６月には熊本で女性会議が開催。各都道府県での女性担当委員選出依頼。

2）国体の抽選方法検討依頼の発言。国体シードの検討依頼。次年度、次々年度開催県の理事長等をマッチバイザーにすることの検討依頼。会長から、検討すると回答。

3）高校選抜の参加チーム数は 18 年度は記念大会であり全県１チーム、以降は従来通り。

4）車椅子大会の説明。

5）全日本学連会長に迫本淳一氏、関東学連会長に平沢勝栄氏が就任報告。

6）宮崎選手への TV 出演依頼。ハンドボール選手がドッジボールなどの TV の競技に参加していることの説明。少年チャンピオンにハンドボール漫画の企画がある。

〈その他資料〉

1.　平成 17 年度 11 月常務理事会議事録（案）

2.　第３回日本車椅子ハンドボール競技大会資料

日本ハンドボールリーグだより

MIE. violet' IRIS（NPO 法人三重花菖蒲スポーツクラブ）が新規加盟

平成 18 年４月（第 31 回日本リーグ女子１部）より、MIE. violet' IRIS（NPO 法人三重花菖蒲スポーツクラブ：会長向井弘光氏）が日本ハンドボールリーグへの新規加盟致します。チームの所在地は三重県鈴鹿市、設立は平成 14 年６月、地元企業、公共団体の支援を受け設立、同年 10 月 NPO 法人認証、17 年４月総合型地域スポーツクラブとして三重花菖蒲スポーツクラブに変更された。クラブはスポーツ教室、スポーツフェスティバル開催、指導者講習会などを開催し、女子ハンドボールチームは発足以来全日本実業団選手権、ジャパンオープン、国体、全日本総合などに参加している。監督は田口隆氏（前男子日本代表監督）、専務理事には前日本協会常務理事の石井勝氏があたる。

日本ハンドボールリーグへの新規加盟は平成 12 年の男子、豊田合成以来、女子チームとしては平成７年の立山アルミ（平成 13 年休部）以来となる。

写真提供：中日新聞社

がんばれハンドボール10万人会「サポート会員」11・12月入会・継続会員

【岩手】箱崎敬吉　【福島】宗形守敏　【茨城】岡本　大　【栃木】坂本定芳　【群馬】高橋　潔　【埼玉】岩本　明、岡村昭二　【千葉】藤田八郎、窪田　優　【東京】沢登弘和、渡邊佳英、三浦丈治、蒲生澄子、堀江成典、岡前義春、浜田浩和、川上整司、佐藤俊男、佐藤映子　【神奈川】夏山真也、石井美和、加古川正巳、田原やよい　【新潟】高橋　保、寺崎　修、庭山政幸　【富山】徳前美智子、吉水慎一、高林　史　【石川】伊藤義直　【福井】松岡幸雄、佐々木静夫、角谷喜代重　【愛知】佐藤壮一郎、太田耕治、野田　清、冨田寛治、片岡拓朗、西口誠一郎　【三重】大石博義、細野秀男　【岐阜】杉山二女代　【滋賀】高畠典克　【京都】藤本章子、守本幸三郎　【大阪】中川大嗣、深田礼子　【兵庫】狩野幸介　【奈良】松江　徹、松江真理子　【和歌山】大西香菜子　【鳥取】萬　隆志、足立逸郎　【岡山】山本理津子、植田友紀、木村博子、木村佳菜、奥埜美峰、奥埜啓子、辻　千春、木村菜見　【広島】白石　隆、松本昌之、山本伸二、樋野村　勉　【香川】末澤光夫【愛媛】越智　誠、越智理佳、越智裕介、越智皓平、越智聡郎、加藤誠一　【福岡】宮内貴博　【鹿児島】永野浩一

【2月の行事予定】

【会議】

2月4日（土）　第2回評議員会（東京）
2月18日（土）　常務理事会（東京）
2月18日（土）　第3回理事会（東京）
2月19日（日）　事務取扱責任者会議（東京）

【大会】

2月10日（金）～12日（日）
全日本実業団チャレンジ2006
（第61回のじぎく兵庫国体リハーサル）（兵庫県）
2月12日（日）～21日（火）
男子アジア選手権大会兼世界選手権アジア予選（バンコク）

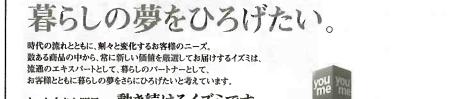
＜平成17年版競技規則発行について＞

平成17年版競技規則が昨年12月20日に発行されました。IHFが度重なる文言の変更をしてきたため、発行時期が大幅に遅れました。誠に申し訳ございません。購入お申し込みは、（財）日本ハンドボール協会事務局に**現金書留**又は**郵便振替**にてお願いいたします。価格は、1部1,300円（送料込み）。10部以上の場合は、1部1,200円となります。

申し込み・問い合わせ先
財団法人日本ハンドボール協会　「平成17年版競技規則」申込係
〒150-8050　東京都渋谷区神南1-1-1 岸記念体育館内
TEL. 03－3481－2361　　FAX. 03－3481－2367
記入事項：注文冊数、氏名、送付先（郵便番号、住所、TEL）
郵便振替口座　00160－4－58348　財団法人日本ハンドボール協会

※現在、審判部におきまして「ルールに関する問題集（仮題）」を作成中です。4月上旬発売を予定しています。

HAND BALL CONTENTS Feb

（登録チームの購読料は登録料に含む）

株式会社 イズミ
本社/〒732－0828
広島市南区京橋町2-22
TEL (082) 264－3211 (代)

高いグリップ力を実現！
ミカサの人工皮革ハンドボール

HVN300

検定球3号、人工皮革
男子(一般･大学･高校)

HVN200

検定球２号、人工皮革
女子(一般･大学･高校)・中学校

HVN300／HVN200の特徴

1 人工皮革
ソフトな触感と抜群のグリップ力を発揮するハンドボール専用の人工皮革

2 フォーム層
特殊フォームが衝撃をやわらげ、触感を向上させハンドリング性能が向上します

3 補強層
柔軟性と強度をあわせ持った特殊補強布が丸さとサイズを保ちます

4 ラバーチューブ
バルブ落下防止構造のラテックスチューブは、柔軟でリバウンド性能に優れます

1 人工皮革
2 フォーム層
3 補強層
4 ラバーチューブ

株式会社 ミカサ 〒733-0002 広島市西区楠木町3-11-2 TEL.082-237-5145 FAX.082-238-1252 www.mikasasports.co.jp